

坂井先生がやっと、サンフェイスが取り上げられた雑誌「ソトコト5月号」を読んでくれたみたいですね。ww お忙しいのにありがとうございます☆
さて、今回も「視覚支援」のお話。今となってはどこでもやってる事ですもんねえ。意味をしっかりと解ってやるのと、皆がやってるからやるのとでは、すごい差が出て来ますよねえ。しっかりと抑えておきたいポイントですね。 久田

第72回『わかるように伝えていますか』

香川大学 坂井 聡

視覚的支援

先月号でも述べたように、視覚優位ということから考えると、これまでの研究からは、自閉症スペクトラムなど発達障害のある人に対して視覚的支援が必要であるという根拠を導き出すことはできないことになります。

しかし、これまで述べてきた、研究結果が視覚的支援の必要性を否定するものでもないということは忘れてはなりません。自閉症スペクトラムなど発達障害のある人と関わっている人なら、実際の臨床場面や生活の場面で視覚的な手がかり等を使うことで、自閉症スペクトラムなど発達障害のある子どもたちが音声だけで伝えたときよりも、

伝えられたことを理解して動いていると感じることは多いのではないかと思います。ことばで伝えたときよりも、視覚的な情報を使って伝えた方が、こちら側の意図が容易に伝わったという経験は珍しいものではないのです。

むしろ、誰もがしているのではないかと思います。

このように考えてみると、視覚的支援が有効であるということは、現場で自閉症スペクトラムなど発達障害のある子どもなどに関わってきた人たちが、体験的に積み重ねてきた事実であると考えることができるのです。実際に指導や療育に関わってきた人たちの、経験的な事実から得られたものだということです。

では、支援者側ではなく自閉症スペクトラムなど発達障害のある人が語っていることから、どのようなことが言えるのかを見ていきたいと思います。

自閉症スペクトラムの当事者であるコロラド州立大学のテンプル・グランディン氏は、その著書の中で、自閉症スペクトラムのある人の独特な考え方は3種類あると語っています。一つは、視覚思考（絵で考えるタイプ）、二つ目が音楽、数学思考（音楽と数学で考えるタイプ）、三つ目が言葉の論理思考（言葉の論理で考えるタイプ）の3種類です。

絵で考えるタイプの人は、具体物などを用いて概念を教えることが効果的だと述べています。また、言われたことを絵に置き換えて理解するとも述べています。音楽と数学で考えるタイプは、様式で思考し、物事の関連性を見つけることが得意だと述べています。言葉の論理で考えるタイプは、表や数字が好きで、それらを記憶することが得意であると述べています。

テンプル・グランディン氏はこのように、自閉症スペクトラムなど発達障害のある人の思考パターンにも一様ではないということを示しています。ここで注目すべきことは、それぞれの思考パターンを考えた時、視覚的な情報はとても有効だということです。絵で考えるタイプの場合であれば、絵などの視覚的な情報があれば分かりやすいと考えられますし、様式で思考する場合も関連性を見つける際には、視覚的な情報があつた方が理解しやすいことは明らかです。論理で考える場合も、整理して伝えるときには視覚的な情報があつた方が理解しやすいと考えられるからです。いずれの思考パターンの場合も、視覚的な情報処理をした方が分かりやすいのではないかと思います。これは容易に想像することができます。

これまでのところを少し整理してみましょう。これまで述べてきたように、研究の結果や、自閉症スペクトラム当事者の語っていることを整理すると、次のように説明できるのではないかと思います。

「自閉症スペクトラムなど発達障害のある人たちが必ずしも視覚的な情報処理が優れているということではないが、実践的な場面での体験、当事者の語っていること等から相対的に考えると、聴覚的な情報処理の方略よりも視覚的な情報処理の方略を使った方が伝わりやすい」ということです。門(2010)が述べているように、「視覚的支援の優位」ということなのではないかと思います。

このように、自閉症スペクトラムなど発達障害のある人と関わってきた経験や、当事者が語っていること等から得られた情報を整理することで分かってきたのが、自閉症スペクトラムなど発達障害のある人は視覚的な情報処理がしやすいという事実なのです。そして、このインフォーマルな情報を積み重ねていくことをもとに実践した結果から導かれてきたのが、視覚的支援が有効であるという経験的事実になるのではないかと思います。

では、次回からは、これら視覚的な支援をどのように使えばよいのかを考えたいと思います。

坂井聡先生の紹介

(プロフィール)

香川大学教育学部卒業 金沢大学大学院教育学研究科修了、香川大学教育学部附属養護学校など養護学校教諭を経て、現在香川大学教育学部障害児教育コース准教授 1997 年 自閉症のコミュニケーション指導で辻村奨励賞受賞。2013年より教授に就任。

(著書)

暮らしの中のコミュニケーション（やまびこの里） クラスルームコミュニケーション（こころリース出版会） 自閉症や知的障害をもつ人とのコミュニケーションのための10のアイデア（エンパワメント研究所）など